

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	訪問指導事業	会計	一般会計	事業No.	246	施策順No.	31-009
		事業種別	政策・その他	予算科目	4-1-3-11-6		
政策	3 健やかに安心して暮らせるまちづくり			課等名	保健課		
施策	31 心と体の健康づくり			事業期間	開始	終了	

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	一般市民						A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない
	誰、何に	具体的な数値で表すと(対象指標)	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	
		住民人口		106630	105691	105036	107000	
	意図	健康の保持、増進または回復の方法について自ら理解し、健康課題の解決のために生活習慣の改善等の行動ができるようになる						
対象をどう変えるか	事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績	23年度目標	目標達成度
	訪問指導延べ人数	1730	2100	2842	2100	3142	2100	B
	健康づくり家庭訪問世帯数				115	104	950	
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】	健康ケア計画モデル地区の全戸訪問はほぼ達成できた。高齢者の訪問は、ケアマネジャーや地域包括支援センター、民生委員が中心となり、連携を密にして地域での訪問や相談活動を行っている。							

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	市民に対して、健康増進や疾病予防等の目的で、保健師・栄養士・歯科衛生士等が家庭を訪問して、家庭環境や個人の状況にあった生活習慣の改善や、医療・福祉などの相談と保健指導を行う。		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	健康の保持増進や疾病予防のために必要な方、要望のある方の自宅等に訪問し、必要な相談、助言、指導を行う 健康ケア計画重点事業として、橋北地区をモデルに健康づくり家庭訪問事業実施、健診対象者の把握と受診勧奨、高齢者の実態把握を行う	訪問延べ人数 訪問世帯数	3,142人 104世帯
23年度実施計画	健康の保持増進や疾病予防のために必要な方、要望のある方の自宅等に訪問し、必要な相談、助言、指導を行う。 地域健康ケア計画重点プログラム事業 橋北全地区をモデルに健康づくり家庭訪問事業実施、がん検診対象者の把握と受診勧奨、高齢者の実態把握を行う	訪問延べ人数 訪問世帯数	人 950世帯

3 事業コスト

事業費	特定財源	国庫支出金				特定財源内訳、補足事項 (県)健康増進事業補助金(2/3) 139千円
		県支出金	105	139	105	
		起債				
		その他				
		一般財源	1,305	835	1,589	
	計(A)	1,410	974	1,694		
	正規職員所要時間		3,500			
	臨時職員等所要時間		1,500			
	人件費計(B)		14,129			
	トータルコスト A+B		15,103			

4 事業に対する市民や議会の意見

議会から、生活習慣病予防の取り組み、特にメタボリックシンドローム(内臓脂肪症候群)の考えを取り入れた取り組みが必要であるとの意見がある。
--

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	市民が心身ともに健康を保つ	施策の成果指標又はムトス指標	心身ともに健康であると感じている市民の割合 65歳未満の生活習慣病による死亡率
この事務事業は施策の目的達成にどのよう に貢献しましたか	4年間の振り返り	健康ケア計画による健康づくり家庭訪問で、モデル地区を全世帯訪問することで、市民の健康に関するニーズを把握し、関係機関との連携強化に結びついている。		
	後期に向けた課題	モデル事業を全地区に拡大するための取り組み。		
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫を してきましたか	4年間の振り返り	特定保健指導とあわせ、生活習慣病予防のための訪問、がん検診の精密検査受診勧奨の訪問等実施。健康ケア計画の健康づくり家庭訪問では、がん検診の申し込み率向上のための働きかけを実施。		
	後期に向けた課題	がん検診受診率向上に向けた取り組みを行う。		
コストを削減するためにどのような工夫を してきましたか	4年間の振り返り	訪問にかかる費用は、職員の人件費であり、削減はできない。		
	後期に向けた課題	モデル事業を全地区に拡大するための取り組み。		
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り	受益者負担はない。		
	後期に向けた課題			
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を發揮するために、行政はどのような働きかけを してきましたか、又は、配慮してきましたか	4年間の振り返り	①主体は市民、地域包括支援センターや基幹包括支援センター、民生委員との協働により、役割分担し連携をとりながら訪問を実施。 ②健康ケア計画の家庭訪問事業や、2か月児訪問を通して、事業への理解を深めた。		
	後期に向けた課題	市民の皆さんに訪問事業について認知度を高め、利用しやすい環境づくりが必要である。		
全体を通じて	4年間の振り返り	保健師が必要と認めた対象者や、地域住民からの要望により訪問事業を展開してきたが、訪問事業の認知度を高め、より多くの市民が活用できるような体制を考えていく。		
	後期に向けた課題	市民の皆さんに訪問事業について認知度を高め、利用しやすい環境づくりが必要である。		

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ない	対象や意図を修正する必要はありますか	ない	成果指標や指標値を修正する必要はありますか	ある
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------------	-------------------------------	--	--------------------------------	--